

東北大学大学院歯学研究科
インターフェイス口腔健康科学
第92回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

骨格の形成・維持・再生における
CCNファミリータンパク質の役割

滝川 正春 先生

岡山大学歯学部先端領域研究センター センター長/
大学院医歯薬学総合研究科教授(特任)

平成28年1月22日(金) 18:00~19:30
A1 講義室(講義棟1階)

我々は1997年に、肥大軟骨細胞に高発現する遺伝子hcs24をクローニングし、この遺伝子が結合組織成長因子(CTGF)をコードすること、その組み換え体タンパク質(rCCN2/CTGF/Hcs24/)が、成長軟骨細胞、血管内皮細胞、骨芽細胞、さらには破骨細胞前駆細胞の内軟骨性骨化に関与する4種の細胞に働いて、内軟骨性骨化を全般に亘り促進する多機能因子であることを明らかにしてきた。また、その過程でCCN2が軟骨・骨の再生因子であることも明らかにした。

本講演ではこのCCN2と同じファミリー分子の一つであるCCN3の生理作用とその作用機序について最近の知見を中心に概説したい。

連絡先: 第92回モデレーター 山本 照子 (顎口腔矯正学分野)